

句集

追伸

岩永はるみ

Tsuishin

Iwanaga Harumi

家の近くで保育園の子供たちの散歩に出会った。
縄電車を作って歩いているが、とても列をなしているとは言えない。
何がおかしいのか、一人が笑うと、みんな笑いに笑う。
春風の中で、この瞬間も子供たちは育っているのだろう。
もう一度、あんなふうになりたい。
と、第二句集を出すことにした。（「あながき」より）

春宵の海に向く窓ひらきけり

一湾の船みな眠る春の風

凍ゆるむ稚魚の群れ
みる忘れ潮

梅東風や垣に干さるる
野球帽

野蒜摘む少女のまろき
ふくらはぎ

あたたかし絵本に残る
逆さ文字

早春や麒麟と同じ空を見る

ほつくりと土に鋤き込む春夕日

春の水少年つぎつぎ石投ぐる

月おぼろ舟屋に寄する波の音

夕ざくら合祀の宮に雨匂ふ

裏山の風色づけり猟期終ふ

陽炎や地軸の少し歪みをり

地震あとにかかるサーカス山笑ふ

おほき字で母に出す文つくしんぼ

切符買ふ指に仄かなみつばの香

行く春の背にひんやりと聴診器

こだはりの空にかき消ゆしやぼん玉

若草の匂ひ立ちたる馬の息

春の浜少年犬を放ちけり

伝言板に猫の手配書花ぐもり

樹上より少年の声風薫る

草取りの庭に現る郵便夫

老犬の飽かず眺むるかたつむり

古書店に写楽の額や走り梅雨

山門に続く箒目蟬時雨

青
す
だ
れ
川
筋
曲
が
る
蔵
の
町

微
熱
あ
る
身
に
固
く
締
む
単
帯

夏
草
の
匂
へ
る
人
と
雨
宿
り

僧
院
の
青
梅
落
つ
る
石
畳

鉄橋に子らの歓声山の虹

トラックの荷台で寝る子麦の秋

牧に向く宿の小窓や青林檎

野良犬と川を見てゐる半ズボン

山裾の駅舎眠たし桐の花

緑蔭や黒き衣の僧の列

ゆつくりとヨット抜け出づ島の影

沖に出て漕ぐこと止むるボートかな

足太き仔犬の駈くる今朝の秋

朝寒や山鳩のよく鳴いてをり

爽籟や群れて動かぬ牧の牛

明日閉ざす牧とも知らず放ち馬

分去れの子抱き地蔵や夕野分

鬼やんま和尚の眉の太きかな

星月夜雨戸一枚開けおきぬ

雁の闇つれてくる山上湖

道問へば秋刀魚の匂ふ駐在所

萩は実に今も水汲む車井戸

突堤に犬追ふ子ども秋夕焼

鳶の笛海見えてゐる葡萄畑

著書略歴

岩永はるみ（いわなが・はるみ）

1939年 東京都大田区生まれ

1960年 青山学院女子短期大学国文科卒

1993年 春遊俳句会入会

成瀬櫻桃子・鈴木菜子・安立公彦 各主宰に師事

2001年 第30回春遊賞受賞

2002年 「春遊」燈下集（同人）入集

2011年 第一句集『白雨』上梓

2012年 成城句会 合同句集『明日』上梓

俳人協会会員

青山学院校友会中央支部「青桃会」会員

交詢社「俳句研究会」会員

春遊叢書第191輯

句集 追伸

2020年2月20日 発行

定 価：本体2800円（税別）

著 者 岩永はるみ

発行者 奥田 洋子

発行所 本阿弥書店

東京都千代田区神田錦裏町2-1-8 三忠ビル 〒101-0064

電話 03(3294)7068(代) 振替 00100-5-164430

印刷・製本 三和印刷

ISBN 978-4-7768-1471-9 C0092(3187) Printed in Japan

©Iwanaga Harumi 2020